

## 韓国骨髓バンクから日本へ初提供（3月8日）

本日（2000年3月8日）、韓国骨髓バンク（Korean Marrow Donor Program：KMDP）から日本骨髓バンク（財団法人骨髓移植推進財団）への、初めての骨髓提供が行われます。

患者は近畿地区在住の10歳代の男性で、急性骨髓性白血病のため、昨年初め、日本骨髓バンク（当財団）へ患者登録されました。日本骨髓バンクのドナー登録者の中からは適合者が見つからず、全米骨髓バンク（NMDP）と台湾骨髓バンク（TCMDR）にも当財団を介して登録されましたが、いずれも適合者を見出すことができず、1999年6月に当財団と提携を行った韓国骨髓バンクに登録されました。その結果、適合ドナーが見つかり、コーディネートも順調に進み、本日の移植に至ることとなりました。

この患者の骨髓移植は、愛知県の当財団の認定病院において今夜行われます。

骨髓提供者（ドナー）は韓国の30歳代の男性で、骨髓採取はソウル近郊のKMDP認定病院で本日行われました。採取された骨髓は、患者の移植施設職員により、採取病院から移植病院へ運搬（ソウル金浦空港 名古屋空港）され、今夜、患者へ移植されます。

骨髓バンク（当財団）は1991年12月18日に発足し、事業を開始してから8年が経過しておりますが、2000年2月末までに当財団の連絡調整によって2491例の非血縁者間骨髓移植が実施されています。そのうち、国際協力事業による海外からの提供が65例、海外への提供が21例、合計86例が含まれています。

韓国骨髓バンク（KMDP）と日本骨髓バンク（当財団）の提携は、昨年5月に行われ、適合ドナー検索、コーディネート依頼が相互にできるようになりました。提携後は9例、提携前には3例の日本から韓国への提供がありましたが、韓国から日本への提供は本日が第1例目となります。骨髓移植のためには患者とドナーの白血球の型（HLA型）が一致することが必要ですが、日本人と韓国人はその一致率が高く、日韓バンクの提携と相互交流は、両国の患者のために大きな意義があり、今後、相互提供が活発化していくよう強く期待しています。